

## 伊佐浜屋取について

宜野湾市と北谷町の境に位置する伊佐浜は、豊かな水田が広がる「伊佐浜ないしは北谷ターブックワ」と呼ばれる一帯にあり、宜野湾村でも有数の米どころでした。よい稲が育つ「苗代田」も多く、苗を買い求めに来る人が絶えませんでした。



1800年代後半には首里・那覇・泊から士族層が移住し、小規模な屋取集落を形成しました。「イサバーマ」と呼ばれ、国道58号沿いの「メーヤードゥイ(前屋取)」と、キャンプ瑞慶覧内の伊佐、喜友名、安仁屋、北谷村北前(現北谷町)の境界に所在した「クシャードゥイ(後屋取)」に分かれていました。伊佐浜と伊佐の住民同士の関わりは行政上のみで、その他の日常生活の付き合いは、各ヤードゥイ集落のみで行われました。

戦後、伊佐浜の人々は焼失した家屋や荒れ果ててしまった農地の再建作業を行いました。回復までに数年かかりましたが、1951(昭和26)年頃には田畑の耕作も軌道にのり、戦後の新しい生活に落ち着きを取り戻しつつありました。

## 伊佐浜の土地闘争

米軍は1953(昭和28)年に土地収用令を公布し、県内各地で土地接収を強行しました。1954年には米国民政府により伊佐浜-伊佐-喜友名-新城-安仁屋に広がる13万坪の水田に水稻二期作の植え付けが禁止され、その後土地接収が通告されました。

住民は「農民の命土地を守れ」「金は一年土地は万年」の幟を立てて反対運動を起こしました。



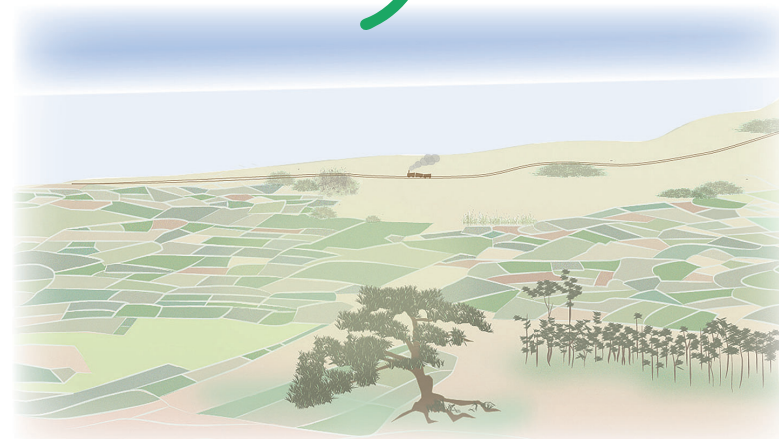
この運動は「伊佐浜の土地闘争」と呼ばれ、米軍の強権に一年余におよんで抵抗しましたが、1955年7月19日の早朝、米軍は伊佐浜の周囲にバリケードを張りめぐらし、ブルドーザーやクレーン車で家屋を取り壊し、サルベージ船で北谷沖から土砂をすくい上げて伊佐浜の美田を埋めました。

住む家と田畑を失った住民は大山小学校での仮住まいを余儀なくされ、約1カ月の避難生活後、23世帯が沖縄市高原(インヌミヤードゥイ)へ移住しました。小石の多い荒れた土地での新生活となり、追い打ちをかけるように台風被害や生活援助の打ち切りがあり、度重なる苦労に南米へ移住した住民もいました。

伊佐浜の強制土地接収から67年が過ぎた現在、伊佐浜にあった美田や住民の生活跡は面影もなく米軍施設の一部となっています。そしてインヌミ(沖縄市高原2丁目)には現在も元伊佐浜住民が暮らしています。



# 伊佐 いさ 歴史文化遺産マップ



## 伊佐について

伊佐は標高10m以下の琉球石灰岩と泥岩の不整合部にあたる段丘崖に位置し、湧き水が豊富な地域です。1671(康熙10)年に浦添間切から分離し宜野湾間切に編成されました。元々は現在の国道58号より東側が集落地で、拝所があった東原に人が住み始め伊佐原へ広がっていったそうです。換金作物として主にサトウキビと水稻を栽培し、常食用にサツマイモを育て、自給自足で暮らす80戸ほどののどかな集落でした。

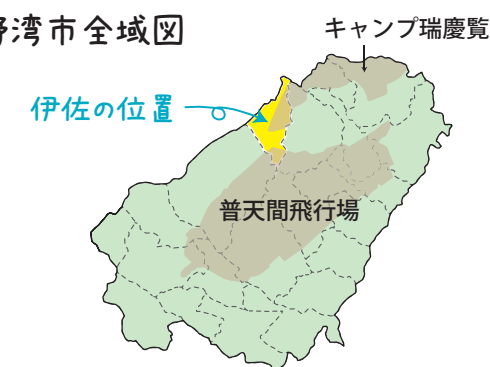
戦後、米軍の強制土地接収により旧集落は基地となり、人々は海側の伊利原と前原に居住地を移しました。ウブガーとウフガーも埋められましたが、元の水脈を利用して新たに復活させました。

現在の伊佐区は道路整備や西海岸の埋め立てで市街地化が進み、住宅や商業施設が多く立ち並んでいます。



戦前の伊佐集落イメージ図

## 宜野湾市全域図



編集・発行/宜野湾市教育委員会  
〒901-2203 沖縄県宜野湾市野高1-1-2  
TEL 098 - 893 - 4430

編集協力/株式会社文化財サービス  
〒901-2222 沖縄県宜野湾市喜友名1-11-15-206

印刷/●●●●●●●●  
〒000-0000 沖縄県 〇〇〇〇〇〇